

さいたま市立大砂土中学校 学校だより



～キーワードは「笑利」と「求利」！～

さいたま市立大砂土中学校

さいたま市見沼区東大宮 1丁目100-1

TFI・048-684-8004

第5号

令和8年9月7日発行

納得する景色

校長 越智 宏明

2学期が始まり、学校に生徒たちの元気な声が戻ってきました。長丁場の2学期となりますが、お互いの魅力を発揮し合っ

て認め合っ、充実した生活を送ってもらいたいものです。この夏休み、大砂土中の生徒たちのたくさんの活躍を見ることができました。運動部の県大会そして関東大会、吹奏楽コンクール、美術部作品展や中学生英語弁論暗唱大会、「ストップいじめ！子どもサミット」への参加と、本当にたくさんの場に出かけ、元気をもらうことが出来ました。本当にありがとう！

今回、本校の生徒たちは出場できませんでしたが、運動部の全国大会が、今年は、中国地方各県を会場に行われました。教務主任の笹原教諭と1学年の小島教諭は島根県出雲市で行われたバスケットの全国大会を視察してきましたそうです。バスケットの試合もそうですが、レンタカーで出雲市内を回った話を聞きながら、本校の職員たちも、思い思いの方法で英気を養い、2学期に備えていたのだと知りました。

ところで、その島根県出雲市に、私はある思い出があります。実は20歳の時、人生で初めて「家出」をして、数日間滞在した先が出雲市だったのです。

大学3年生の3月、私は進路のことで悩んでいました。ずっと中学校の教師になりたいくて、教職課程を履修していたのですが、当時の教員採用試験は競争率が30倍超という狭き門。一方で時代は正にバブルの絶頂。就職は引く手あまたという状況で、一緒に教職課程を履修していた仲間の多くが就職に方向転換をしていきました。私も自分のやりたい道を突き進むか、時代の流れに乗るか、悩みに悩んだ挙句、どこか違う地でゆっくり考えたいと思い、「家出」を決意したのです。思い立ったらすぐ実行しようと、大学の近くの東京駅に向かい、新幹線以外でそこから最初に出る電車の終着駅まで行こうと決めました。まあ、行っても小田原ぐらいまでだろうとタカをくくって…。改札口の上の電光掲示板を見て驚きました。次に出る電車は「寝台特急出雲、出雲市駅行き」。しかも発車は10分後。財布を見ると何とか片道分くらいはありそうです。ここでひるんだら、何も決められない自分のままのような気がして、躊躇なくみどりの窓口に飛び込み、乗車券を購入、電車に飛び乗り、…と、ここまでは格好良かったのですが、終着駅で降りてみれば、帰りの電車賃はおろか、その日の食事代さえない有様で、途方に暮れる結果に。やむを得ず現地で日雇いのバイトを探し、そこの親方のような方の家に泊めてもらうことになりました。その家には同じ世代の若者が数人共同生活をしていて、話をしてみると、全員が働きながら日本中を旅している人たちでした。その中の一人、神戸からバイクで来たという同い年の大学生と仲良くなったのですが、彼にいつまでここにいるのか尋ねたところ、「穴道湖できれいな夕陽を見るまで（穴道湖は夕陽の名所として有名です）」という答えが返ってきました。「いつまでも待つんだ、自分が納得する景色を見られるまでいようって…」。

その言葉を聞いて、私は、自分の心が決まったと感じました。自分も納得する景色が見られるまでやりたいことを続けてみよう。後悔だけはしない生き方をしよう。

狭き門は、想像以上に「狭き門」でした。教員採用試験は何度受けても1次試験で不合格、その間にバブルが弾けて就職氷河期と言われる時代に突入、就職も難しい状況。結局臨時教員を7年続け、8度目の挑戦でようやく念願の本採用教員になることが出来ました。でも諦めずに「納得する景色をみたい」と思い続けることができたのは、出雲市で出逢ったあの若者の何気ない一言がきっかけだったような気がします。

出雲市のシンボルである出雲大社は、「縁結びの神」として有名な場所です。20歳の時の無謀な思い付きでこの地を訪れたことによって、大砂土中の皆さんとの縁を結んでいただき、そして今年の夏、私自身、大砂土中の生徒たちから「納得する景色」をたくさん見させてもらえたのかなと、諦めなくてよかったなと、つくづく感じた夏休みでした。



男子バレーボール県大会1回戦。フルセットの熱戦となりましたが、粘り強くボールを拾い続け、見事勝利をおさめました。